

# なほ

11月号  
vol. 081

なほトーク

「西成で働くママとパパたち」

特集：働くことの価値

# 社会と向きあう

vol. 02



# 社会と向きあう

vol. 02



## NPO法人 Homedoor

2010年4月設立（NPO法人化は2011年10月）。  
事務局スタッフ：5名  
HUBchari スタッフ：52名

ミッションに「ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造にする」ことを掲げ活動。ホームレス状態の人や生活保護受給者の自立への足がかりとなる就労プログラムの提供や、シェアサイクル事業「HUBchari」で雇用の創出をはかっている。また、ホームレス問題を知るためのまち歩きワークショップ「釜 Meets」といった啓発活動も行っている。



→ 大阪市北区役所のポートにて、HUBchariスタッフの玉木さんと川口さん。HUBchariのイメージカラーの水色は最初にもらった自転車の色と合わせた。

← スタッフのMさんが作ってくれたHUBchariの自転車模型。Mさんとの出会いは、川口さんが「なび」発行元の「ナイス」を知り、「くらし応援室」に連絡をお願いしたところ、HUBchariスタッフとしてMさんを紹介されたのがきっかけ。



## 川口加奈（1991年生 大阪府出身）

中学生のときに電車通学で新今宮駅を利用するうちに、ホームレス問題に出会う。同世代の子供たちがホームレスの人達を襲撃したり、当時年間200人近くが路上で亡くなっていることに衝撃を受け、炊き出しに参加するようになる。

中高生時代にホームレス問題に関する新聞を作ったり講演活動をするうちに、支援よりもホームレス状態を生み出す日本の社会構造を変えることや、ホームレス状態から脱出できる仕組みづくりが大事だと痛感。ホームレス研究がさかんだった大阪市立大学に進学。

2010年、大学2年生のときに釜ヶ崎にあるインフォショップ・カフェ「ココルーム」を使いモーニング喫茶を始める。釜ヶ崎の簡易宿泊所の聞き取り調査などに参加。日雇い労働者、生活保護受給者、釜に関わる支援者、外国人バックパッカー、アーティストなど、いろんな人達との出会いから、彼らの得意な自転車修理を軸にすることを思い立つ。競合のあるリサイクル自転車の販売ではなく、大阪で行われていないシェアサイクルに目をつけ、事業化することに。2011年10月にNPO法人Homedoorを設立。2011年7月に大阪市内でHUBchariの実証実験を1週間行い、好評だったことから2012年4月より本格始動。



レポーター…太田明日香  
「なび」の8月号に引き続き、学術書から雑貨カタログまでオールジャンルオックケイのフリーランス編集者の太田明日香がレポーター。著書に『福祉施設発！こんなにかわいい雑貨本』（伊藤幸子と共著、2013年西日本出版社より刊行）がある。

「なび」8月号の特集「働くことの価値 オヤジ世代への叛乱」では、いま大阪でユニークな働く場を創造している3人の若者と、なび編集長の佐々木敏明が対話し、オヤジ世代とは異なる若者たちの働くことの価値観をあぶり出した。  
座談会ではとらえきれなかったそれぞれの活動をさらにクローズアップするため、今回は対談相手のおひとり、Homedoorの代表・川口加奈さんに再度登場を願った。  
佐々木は長年、大阪のホームレス支援に取り組んできた。一方の川口さんは中学生のころからホームレス問題に関心をもち、2010年4月にホームレスの就労と自立を支援するHomedoorを設立した。  
Homedoorは設立2年ながらも、再就職率が48%と高い成果をあげている。その仕組みに迫るとともに、それぞれ世代も性別も異なる2人の対話から、ホームレス支援のいまを追いかける。



筆者は川口さんと初めてお会いしたときに、若い女性がホームレス支援をしているということ以上に Homedoor の仕組みがユニークだと思った。ホームレス支援と聞くと炊き出しや生活保護へのあつせんというイメージしかもっていませんでしたが、シェアサイクルというコミュニティビジネス（あるいはソーシャルビジネス）につなげたところが新鮮だったのだ。川口さんのような世代の登場は時代によるものか、はたまた現場の変化なのか。佐々木が川口さんとの対話から、支援の現場の「いま」に迫る。

### 「おっちゃん」や「呼び名」

佐々木…ホームレスの応援をやってきた中で、ホームレスの総称として「おっちゃん」という言葉に違和感を抱いている。というのも、個別の名前があるんだからそれと呼んだらいいんじゃないかと思う。もちろん、名前を明かせないという事情の人はいる。でも「おっちゃん」という呼称を使うことは、一人ひとりの個性や存在の否定みたい

HUBchari の現場をレポートするため、事務所のある中崎町からほど近い大阪市北区役所にあるポートを訪ねた。

### HUBchari の仕組み

自転車を利用したいと思ったら、スタッフに声をかけよう。利用時間は1時間100円から。申込書に記入すればレンタル開始。返却は借りた場所以外に大阪市内に11箇所あるポートならどこでも可能。返却時に利用時間を精算。

### スタッフの声

2013年4月から、半年間 HUBchari スタッフをしている玉木さんにお話を伺った。

「ビジネスや観光で利用する人が多いですね。最初は珍しそうに見て話しかけてくる人もちらほらいます。そういう人にはパンフレットを配って宣伝しています。」

多いときで1日5〜6台を貸し出しています。利用時間の平均は3時間くらいです。

働くのは2年ぶりなんですけど、この仕事は接客なので人と接することができて、気持ちが悪くなり、元気がな

や。おっちゃんもおれば兄ちゃんも女性もいる。呼び名がないから仕方なく「おっちゃん」と言う。隠語みたいで差別のような気がする。一人ひとりの存在を認める言葉ってないか。しかも今はホームレス状態というより、生活保護受給者が圧倒的だし。

川口…私はほとんど気にしていませんでした。私の認識としては、「ホームレス」という呼び名の代わりに「おっちゃんたち」という呼び名があるのかな。もちろん名前前で呼ぶときもありますし、おっちゃんたち自身も「おっちゃんら」というふうに分かちのこを呼んでいますので、会話の都合上とか場所にあわせて使っています。

ただ、「ホームレス」というのは状態のことだから、それを呼び名にしてしまうのは違和感があるんです。団体のミッションに「ホームレス状態のない日本へ」としているのを、メディアでは状態を抜かして「ホームレスのない日本へ」とされてしまいますが……。

佐々木…カマって呼び名はどうでした。取材中には元スタッフの仲間が遊びに来て、私たちと話をしてくれました。取材中には元スタッフの仲間が遊びに来て、私たちと話をしてくれました。取材中には元スタッフの仲間が遊びに来て、私たちと話をしてくれました。

取材中に自転車を返しにきた人は「HUBchari のことはネットで知りました。週に1〜2回利用しています。営業の仕事で外回りするので、すごく便利です。」とのこと。HUBchari はホームレス支援の枠を越えた市民の足として、着実に根付きつつあるようだ。

### お客さんの声

取材中に自転車を返しにきた人は「HUBchari のことはネットで知りました。週に1〜2回利用しています。営業の仕事で外回りするので、すごく便利です。」とのこと。HUBchari はホームレス支援の枠を越えた市民の足として、着実に根付きつつあるようだ。

### 最後に

インタビューでは「おっちゃん」「カマ」といった呼び名や性別にこだわらないうフラットな川口さんの語り口の違いが印象的だった。そこには、現場

す。僕は、メディアが使うあいりん地区ではなくカマとは呼ぶけど、もともとカマや西成だけに限って作業をしているわけではないし、だいたいの名称を変えても偏見はなくならん。川口…西成だとはほかの地区まで入ってしまっし、あいりん地区は違う感じがするので、わたしもやっぱりカマですかね。

### 支援の現場における女性の役割

佐々木…あと僕が気になったこと。女性の存在なんだけど、この仕事を始めた頃、女性の相談員と2人で野宿地を個別に回っていた。あるとき、彼女が休みで僕だけで訪ねていたら、その人はまず僕にあいさつするよりも先に彼女のことを気にした。そういうことがあって、自分ひとりが仕切っていたように思っていたけどそうではなかった。やっぱり女性の存在はすごいと敬服した。「楽塾」などでも女性のゲストは喜ばれるし、応援の仕事では女性の存在は大きいね。

Homedoor の事務局は女性スタッフが多いけど、どうですか。川口…そうですね、女性は多いですが、私はあまり関係はないと思います。もし男女の感情をもたれても、丁寧で断ってそれで終わり。そういうふうになさっぱりやっています。いろんなタイプの人がいるので、一概に女性がいいとはいえないんじゃないでしょうか。たとえば、事務局スタッフに50代の男性がいるのですが、職人肌の方なんかは彼の方が気が合いますし。

佐々木…ところで、中学生の頃から8年くらいこの活動をしてきて、川口さんの中でどんな変化がありましたか。川口…中高生のころは日々おっちゃんたちが路上で亡くなっていく状態を止められないという無力感に苛まれたり、一人でも多く救わなきゃという焦りがありました。でも、寝る間を惜しんで活動していた割には成果が少なかった。その後、社会構造を変えないといけないと感じたことで、活動の幅が広がりました。今はやるべきことを淡々と進めている感じです。



や当事者を軸に活動している佐々木と、社会や地域へと活動を広げている川口さん、それぞれの立場の違いが現れているのかもしれない。一方で、川口さんもメディアが使う「ホームレス」という言葉には、違和感を抱いている。おそらくそこに、日本社会が持つ偏見を感じ取っているのだろう。Homedoor が成功したのは、それまで佐々木がやってきたような巡回相談などの地道な取り組みがあったからだろう。現場での活動と社会につなげる活動が連携することが重要だと感じた。

また、Homedoor は現在、就労や自立支援中心だが、佐々木によると、就労や自立以外に働けない人や障がいを持つ人など、個別の事情に応じた支援も必要とされているという。現在は就労や自立支援中心だが、そういった人も含めて支援していくために、川口さんは今後、ホームレス状態にならないための「入口封じ」を目標としている。実現は長い道のりに思えるが、いろんな人を巻き込みながら活動している彼女の姿に、明るいものを感じた。社会を変えるための小さな取り組みは、始まったばかりだ。



【田岡秀朋】邦画の「奇跡のリンゴ」を観ました。成功した無農薬栽培に出会うまでの10年間に、繰り返された試行錯誤が、リンゴの樹木にも変化を与えたのかな。



【平川隆啓】最近、出会った遊び。「直観読みブックマーカー」って知ってますか？直観で！本を開いて文章をブックマーカーに書いてお互い交換。かんたんだけど、いろんな本、人に出会えます。



# サウスオブミナミ

vol.08

## 「まちなか動物物語」

まちを歩いていると、いろんな動物たちに出会います。たとえば、いつも近づくとなじられてくる柴犬もいれば、普段見かけない三毛猫が偶然通り過ぎていたり、そこにはちょっとしたストーリーがあるかもしれません。今回は、西成区北部をグネグネあみだくじのように横断しながら、そんな動物物語を見つけに、まちなかを探検してみました。動物たちに出会ったときのイメージを一言コメントで紹介していきます。



右向け右、整列完了！



商店街の中心で大切な人(犬?)を待つ！?



ひさしの上で黒ネコのタンゴ♪



カエルとライオンでWいらっしゃー!



ちょっと外の世界も見てみたいな



見晴らしはいいんだけど、ちょっと痛いです



近所で「ねこ牧場」と噂?されています



鉢植えに隠れてちょっとシャイ

鶴見橋商店街

花田町



花園町

救之茶屋商店街

救之茶屋駅

堺筋

動物園前駅

動物園前二番街

### ろーじ(路地)を歩く

クルマもなかなか通れない細くてこじんまりした道は、人だけでなく動物にも優しいです。



近づくとも飛んで行っちゃいます



路地裏はわしのテリトリーにゃ

### 公園・空き地を見渡す

土あり、緑あり、ゆっくりのびのびと過ごせる公園などには、いろんな動物も集まってきます。



どろんこ遊びが大好きパンダです



二階の窓から



ガングロ、でも美白にも気がついてます



私たち、いつも一緒です



ご主人さまと黄昏中



ここが私の特等席です



いつも3人仲良し入浴カメー





プロフィール



清家厚仁  
小学5年生の男の子、1年生と3歳の女の子三人のパパ。楽器屋さんの二代目として、西成の福祉施設で音楽演奏のお手伝いをされています。



小手川望  
小学校4年生の女の子のママ。2年ほど前に関東から引っ越してきたのに、大阪西成にすっかり馴染んでいる着物の似合うママです。

今回はホストの清家さんと、動物園前駅すぐにある喫茶EARTHへ。ココルームの小手川さんをゲストに迎え、釜ヶ崎芸術大学(釜芸)のことから、親子関係のことまでざっくばらんにお話しいただきました。途中、ココルーム常連のおじいさんも私たちの輪に加わり(笑)、話は弾みます。

**小手川:** ココルームでは、いま「釜芸」を行っています。いろんなジャンルの授業があって、たとえば「表現」の授業では、ひたすら自己紹介するということをしました。20人もいると2時間の授業では半分の人しかできなくて。でも回を重ねていくと自分がしゃべりすぎちゃいけないとか、バランスを自然に考えるようになる。なので、先生は行き過ぎかなと思うときにしか介入しないですね。あと「ファッション」も人気です。このまちは職人さんが多く、手先が器用な人が多いです。実は手芸が得意だったり、隠れた才能が開花していますよ。

**清家:** パツと見、ファッションに興味なさそうかと思ってしまふけど、たしかにニッカポッカとかおしゃれですよ。

**小手川:** ニッカポッカの白さを保つ洗濯方法にこだわってたり。見た目はおちゃんって感じなのに、とつてもかわいい刺繍をみせてくれたこともあります。

**清家:** 音楽では、民族楽器的なものを使われていますね。

**小手川:** そうなんです。ジャンベをもっている人が「音楽」の授業に参加してくれています。ガムランの授業もあります。実習だけでなく、授業で楽譜の読み方など理論的なことに触れるときもあります。専門的なことをやっても、みなさん真剣に学ばれています。集中力のある方が多いですよ。

**清家:** 専門書を読んでも3ページくらいで諦めちゃいますよ。だから、かみ砕いて教えてくれるのはいいですね。

**小手川:** 西成の福祉施設では、どういったことをされているんですか？

**清家:** 楽器を納めたり、演奏会のお手伝いをしたりして

います。そこは、高齢だったり障がいだったり一人暮らしが困難な方々が生活されているのですが、ミュージック・ケアをしている職員がおられ、「トーンチャイム」という楽器をみんなで演奏してもらっています。自分たちで演奏できるようになると、次はコンサートなどで聴くことも楽しめるんですね。音楽の聴き方、楽しみ方も学んでいけるんです。周りの雰囲気も変わって、準備を率先して手伝ってくれるようになりました。音楽によっていろんな相乗効果を得られて、それを見るたびにすごいなって思います。

**小手川:** 娘は児童が60人もいない小学校に通っていて、音楽といえば学校の鼓笛隊に入っています。

**清家:** その人数に対しての教師なら、手厚いですよね。

**小手川:** でも、練習をしなさいって言うんだけど、なかなかやらないですよ。遺伝だなんて思います。周りからは似てるってすごく言われるんですけどね。お互い「似てないよねえ」って押し付けあっています(笑)。

**清家:** 自分が思っている以上に言われますよ。

**小手川:** 前回のリレーなびトークを拝見して、「あるある」って思いました。親がぼーっとしていると、子どもがしっかりする！

**清家:** 必要に駆られて(笑)。

**小手川:** 娘は地図とかすごく読めるんですよ。私が方向音痴なので。前に知り合いの方と動物園に行ったときも「助かったわ〜」とすごく褒めていただいて。

**清家:** うちの嫁がしっかりしてるから、僕はぼーっとしてた方が、バランスがいいんです。

**小手川:** 夫婦や親子のパワーバランスって、生活を円満に送るときに大事ですよ。

今回はホストを小手川さんへバトンタッチ！

# い湯かげん

平等は小うるさいか？

『国家の品格』で有名な藤原正彦さんは、数学者で、新田次郎を父に、藤原ていを母に持つ日本を代表する知識人の一人だが、直近の週刊新潮のコラム「管見妄語」はいただけなかった。

『平等』は小うるさい」と挑発的な見出しを付けた小文は、

9月4日の婚外子差別は違憲とした最高裁判決の論評だ。曰く、<sup>〔原文ママ〕</sup>妻の子の取り分は本妻の子の半分という民法は、日本古来の家族制と婚外子への同情を良い塩梅にまとめた慣習を踏襲しているもので、最高裁判決は国の生命である「国柄」を忘れて、という論調だ。さらに、女系天皇

外国人の参政権、議員定数の格差など、ともかく「平等」は小うるさいと切り捨て、お茶の水女子大に男子を入れるというなら、「晴れて私が女風呂に入れる日が来るまでお茶大には絶対に男は入れない」と、余分なことまで書いておられる。

最高裁判決は、審理に参加した14人の裁判官全員一致で、婚外子と婚内子を差別する合理的理由は存在せず、民法900条は明確に憲法14条の法の下等の違反していると断じたもので、相統法の改正議論から30年余を経て、ようやく婚外子論争に決着をつけた。ただ、過去の

差別には遡及しないとしたのは、問題を残した。最高裁の判断の背景には、婚外子の出生率が2.3% (30年前は0.8%) に増えたことや、国民の意識調査結果が「慣習」を否定し始めたことがある。

差別というのは、国民の「遅れた意識」の所産と思われがちだが、ボクは、藤原さんや橋下さんの出自報道の週刊朝日の例もあって、何もかも承知のはずの知識人によって、差別が「再生産」される可能性もあるんだなあと思った。部落問題も、ようやく国民的合意を得つつあるが、知識人から水がこぼれることもある。

それにしても、「小うるさい」とまで言われると、藤原さんの良識を疑う。30年来、婚外子差別を問い続け、国民の意識を変え、ついには裁判官を変えた人々の努力には感心したし、そういう社会運動があったことをもつと知りたいと思った。ボクは、外国人への地方参政権付与に賛成だが、

互いを罵倒しあう左と右の論戦には、正直「小うるさい」と思ったこともある。どちらが正しいかだけではなく、侵略戦争の爪痕が残る在日の人々の法的地位問題に、良識的な結論を早く出すべきだと思う。拉致被害者の会の元事務局長の蓮池透さんは、小泉訪朝で拉致被害者が帰国したことを境に、拉致と侵略の「隔絶」に後戻りしまったのは、日本人の知識人や運動団体の「高慢」に責があると発言しておられる。知識人や社会運動は、舌鋒鋭くても良いが、絶妙なバランスが必要だ。



楠ナイス代表取締役 富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「い湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



【四井恵介】飯田さんの今日の晩飯は鯛の照り焼きだそうです。寒くなって日本酒と魚がおいしくなる季節ですね。



【飯田沙保里】そろそろ寒くなってきて体調崩しがちです…しかし紅葉はまだ先。秋なのか冬なのか分かりませんね。





才蔵さんにもつわるエピソードもそろそろ終幕を迎える。私はこの仕事を一段落すれば、久しく続けてきた自営業を閉じようと思っていた。今から思えば、才蔵さんが著わす『地方（じがた）の聞書』の冒頭（前号）は、まさに身にまつまされる言葉であった。

1995年に起きた阪神大震災の直撃と余波は、私にとって大きな借財を生み、家族と離別し、仕事も急激に少なくなった。気持ちからは自暴で自失な日常を送っていたと思う。その震災後、突然に奈良県川上村から広告代理店を通じ河川広報宣伝の仕事が回ってきた。それが契機となり、この建設省「河川環境調査書」の仕事につながっていくのである。しかし企業などの提灯持ち仕事は、この調査後おさらばしようと考えていた。広告宣伝の仕事は企業を富ませ、我が経

# 枝葉末節

才蔵さん その5 (最終回)



hidarimaki こと佐々木です。稲刈りをし、寒塾の大きな催しが終わりました。これからの1年間、自分たちで作ったお米を給食で食べることができそうです。

済と心の充足を富ませられなかった。そのかわり、自らの転落が他者の転落に興味を持たせたといいか、共感したという動機。それが周辺に群集う野宿者らの存在だった。当時彼らに支援するそんな仕事があるなど想像すらなく、何より貧乏地地いく浮薄の身、人のことをいえた義理かと自らを嘲笑していた。まさにそんな折の「河川環境調査書」の仕事は、さまざまな地域で暮らすたくさんの人たちとの邂逅をもたらした。その地域というのが吉野川、紀ノ川流域3市12町1村(当時)であったことは「なび8月号」ですでに述べた。

1959年9月、紀伊半島に上陸した伊勢湾台風は、観測史上最大の台風だった。この災害を契機に、紀ノ川の治水計画が立ち上がり、猛烈な反対運動のなか川上村に大滝ダムが建設されていく。ダム建設の影響は川上村のみならず、下流域の自治体にも影響を及ぼした。川上村大滝周辺のバス停でバスを待つおばさんに「大きなダムですな」と声をかけた時、彼女は「こんなダムは要らんよ。私たちの小さい時に台風が来たら学校休みになるし、みんなで上流のおおあちゃんの家を避難しに行くのが楽しみやっただ。でも村は川に沈んでしまった」と話した。それは、先祖代々からの村落が水没し、多くの隣人



受けた。自ら工場を案内し、味噌、醤油の原料や製造工程、醤油を醸成する吉野杉を使った樽など

までをも離散させた涙こそない働哭だった。今も川の水が少ない時、川底に沈んだ村の痕跡が見える。

吉野町はダムの瀑布が流れ落ちる直下の町だ。近鉄線大和上市駅から路線バスで伊勢街道を30分ほど揺られると窪垣内(くぼがいと)だ。「和紙の村」でもあり何人かの紙漉き職人に会った。吉野の手漉き和紙は吉野葛とともに有名な産品だ。「ダムが出来て以来、ダムの泥が流れてきて、もう吉野川の水は死んでいる。僕らの生活と川は切り離せないのに」と半分は怒り、伝統的な紙漉きを後世に伝える困難さを話す、職人の悲鳴を聞いた。

同じ吉野町の「宮瀬醤油」(写真)は創業100年を越える。地元の人からは「宮瀬の醤油以外は使わない」という声をよく聞いていたので行ってみた。突然の訪問にもかかわらず、初老の梅谷社長からは歓迎を受けた。自ら工場を案内し、味噌、醤油の原料や製造工程、醤油を醸成する吉野杉を使った樽など

ゆつくり時間をかけて説明してくれた。

梅谷さんは「美味しい味噌、醤油を届けるために、昔からの醸造法を引継ぎ量産をしない」といい、「醸造は、水とか空気とかいろいろな条件がありますな。人間と違って、カビとかが一番よう育つ条件を作ってやる、そんな考えですな。カビと人間が共生するというかね。」

梅谷さんが一瞬才蔵さんに重なった。それは地域に腰をすえ、その場所で暮らす人々に何が必要で、無くしていけないものは何かを語った大畑才蔵の言葉でもあったからだ。この調査の旅の特色はまさにそれであった。無名の男や女たちが、利得だけでなく自らの熱情を他者に伝えながら、しかし自らの活動地点を必要以上に大きくせず、互いの顔が見える距離に徹していたことが印象に残った旅なのであった。

この仕事を最後にしようとしていながら、思わぬ宝を得たことも事実であった。才蔵さんのような志が死んでいないという実感というか、だからこそ、最後の仕事をやり通した爽快感があった。ここからもう一度新しい仕事をしよう。

才蔵さんが士分に取立てられ大仕事を始めたのが55歳。私が新しく今の仕事を見つけたのも同じ55歳だった。 hidarimaki

※喫茶 EARTH については「にしなりカレンダー」もご覧ください。

# 西成活動記

第八回「喫茶 EARTH」



地域のええなを見つけられる場所

ふらっと立ち寄れる小さなカフェ。今日はカフェラテを頼んでみました。ライブやイベントなども幅広く行われています。

最近、buy local (バイローカル) という言葉を知ったのですが、これは、地元のお店を積極的に利用することで、地域の経済や魅力を伸ばしていく取り組みのことです。ここ喫茶 EARTH も、実は地元のお店で購入したもので、となりのクレープ屋さんで好みのスイーツを買ってきて、おいしいコーヒーと一緒にいただく、なんてこともできます。

文：平川隆啓 / 写真：高橋静香

# ピースのつばやま



ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。

「さようなら秋」

このあいだ、お父さんの田舎に行ってきたよ。

3時間ほどのドライブは、9歳の私にとって緊張と忍耐のくりかえし。

途中の休憩も道のりを長く感じた。

でも、田舎に着いて車を降りた瞬間、わたしの鼻には、透き通ったおいしい空気が入ってきた。目にはまぶしいぐらいの綺麗な景色が入ってきた。耳にはやさしい谷川のせせらぎが聞こえてきた。身体には冷んやりとした、冬の訪れの気配を感じた。私の大好きな食欲の秋は、まもなくおしまい。

まだ食べていけない物はないかな？と急に焦ってしまった私ですワンワン!!

赤井まゆみ





# 思ったら！ にしなりカレンダー



## いろいろやってみよう！@岸里地域

### 「くるりんぱーク」

「みんなでつくる・みんなのイベント」を合言葉に、西成区岸里地域で新しいイベントを毎月開催！今回は、かえっこバザールや、フリーマーケット、ワークショップなど、子ども大人もみんな一緒に楽しめるイベントがいろいろ。（※雨天中止）

日時：11月16日（土）10:00-15:00  
場所：岸里公園（岸里 2-12）

「くるりんぱーク」関連イベント

### 「手作り酵素ジュースの作り方講座」

日時：11月27日（水）10:30-12:00  
場所：岸里老人憩の家  
参加費：1,000円 定員：30名

主催：岸里地域活動協議会（岸里地区社会福祉協議会）  
<https://www.facebook.com/Smile.kishinosato>

## みんなで作ろう！@喫茶 EARTH

### 「ドキッ 1日だけのはんこまつり」

みやけまさよさんが消しゴムハンコの展示販売。  
500円からオーダーはんこも作ってくれます。  
日時：11月10日（日）

### 「ライブ（タイトル未定）」

日時：11月17日（日）  
企画：大蔵喜恵 参加費：無料・投銭歓迎

### 「まわしよみ新聞 De 講談」

講談師がみんなで作った「まわしよみ新聞」を読み上げる。平成のニュースを古典の話し方で語るとどうなるの？  
日時：11月18日（月）19:00-  
参加費：1000円

### 「釜凹バンドライブ」

日時：11月30日（土）参加費：無料・投銭歓迎  
場所：喫茶 EARTH（太子 1-3-26）  
<https://www.facebook.com/pages/EARTH/411417968913437>

## 楽しくチャレンジ！@長橋地域

### 「第10回ちとり家 鉄道模型運転会」

鉄道模型（Nゲージ）運転体験！店内ご飲食のお客さまは10分間無料で体験できます。車両お持ち込み大歓迎！他にも、鉄道グッズ販売や、運転抽選会など開催！

日時：11月16日（土）11:00-15:00 17:00-20:00  
場所：大衆食堂ちとり家（長橋 2-4-34）  
問合せ：大衆食堂ちとり家  
TEL：06-6562-1389  
<http://www1.ocn.ne.jp/~chitori/>

### 「餅つき講座」

餅つきの手法「つき手と返し手」のリズムを学べます！  
日時：11月30日（土）13:00-15:00  
場所：大阪市立市民交流センターにしなり  
参加費：500円  
定員：15名（多数抽選）  
※講座の参加者にハガキでお知らせします  
締切：11月19日（火）  
問合せ：大阪市立市民交流センターにしなり  
TEL：06-6561-0007 <http://nishinari.org/>

## あとがき

いつまで暑い日が続くのか、と途方に暮れていたら、急に肌寒くなってきました。もうすぐ4歳になる息子は、まだまだ半袖。出会うみなさんに「元気やな〜」とお声がけいただけます。

その息子が、先日、保育所の遠足で、どんぐりを山盛り拾って持って帰ってきました。二人でそのどんぐりをポンドで段ボールにくっつけて遊び、小さな秋を感じました。

（高橋）

なび11月号 (vol.81)

発行日：2013年11月10日（創刊日：2007年1月1日）

発行：株式会社ナイス

発行人：代表取締役 富田一幸

印刷：有限会社前山企広

住所：大阪市西成区長橋3-6-33 電話：06-6563-1156

E-mail: [info@nice.ne.jp](mailto:info@nice.ne.jp) url: <http://www.nice.ne.jp/>

編集長：佐々木敬明

編集：田岡秀朋、平川隆啓、四井恵介、飯田沙保里

イラスト：hidarimaki デザイン・表紙写真撮影：高橋静香

（表紙の写真は「喫茶 EARTH」で撮影しました。バックは釜ヶ崎発市民メディア「まわしよみ新聞」です。）